

2025年3月期
第2四半期（中間期）決算説明会資料

栄研化学株式会社（証券コード：4549）

2024年10月31日

- 1. 2025年3月期第2四半期決算概要**
- 2. 2025年3月期通期業績予想の変更**
- 3. 自己株式取得の決定**
- 4. その他トピックス**

2025年3月期 第2四半期決算概要

2025年3月期第2四半期決算概要

2025年3月期 第2四半期エグゼクティブサマリー

• 外部環境

- ✓ 新型コロナウイルス検査試薬の需要の減少
- ✓ 世界的な資源価格の高騰や金融引き締めに伴う経済の下振れリスク
- ✓ 円安や原油高による物流及び原材料調達などのコスト上昇

• 当社業績

- ✓ 便潜血検査試薬の入札前の買い控えや在庫調整などの影響があり前年同期比減収
- ✓ 遺伝子関連については、新型コロナ遺伝子検査薬の需要が想定を下回り前年同期比減収
- ✓ それらに伴うセールスマックスの変化、販管費増の要因により、営業利益・純利益ともに前年同期比で減益
- ✓ 下期は買い控えが解消し、販促に努めるものの、開発費の増加や上期業績を勘案し通期業績予想を修正
- ✓ 株主還元として50億円を上限とするの自己株式の取得を決定

• その他

- ✓ 唾液による感染症デジタル検査技術を開発するナノティス社へ出資
- ✓ 東京科学大学と革新的な臨床検査技術の開発を目的とした包括連携協定締結
- ✓ 栄研化学 統合報告書 2024公開

2025年3月期第2四半期 実績 前年同期比

海外における入札前の買い控えや在庫調整の影響、国内における新型コロナ検査薬の需要の減少などの影響により、前年同期比減収
セールスマックスの変化、販管費増の要因により、前年同期比で減益

	2024年3月期 第2四半期		2025年3月期 第2四半期		前年同期比	
	(百万円)	売上高比率	(百万円)	売上高比率	(百万円)	増減比率
売上高	20,264	100.0%	19,729	100.0%	△534	△2.6%
国内	15,030	74.2%	14,831	75.2%	△198	△1.3%
欧州	2,067	10.2%	1,616	8.2%	△450	△21.8%
北米	1,119	5.5%	1,243	6.3%	124	+11.1%
アジア・オセアニア・その他	2,047	10.1%	2,037	10.3%	△9	△0.5%
売上原価	11,625	57.4%	11,522	58.4%	△102	△0.9%
売上総利益	8,639	42.6%	8,207	41.6%	△431	△5.0%
販売費及び一般管理費	6,490	32.0%	6,640	33.7%	149	+2.3%
営業利益	2,148	10.6%	1,566	7.9%	△581	△27.1%
経常利益	2,225	11.0%	1,698	8.6%	△526	△23.7%
当期純利益	1,618	8.0%	1,309	6.6%	△309	△19.1%

セグメント別決算 前年同期比

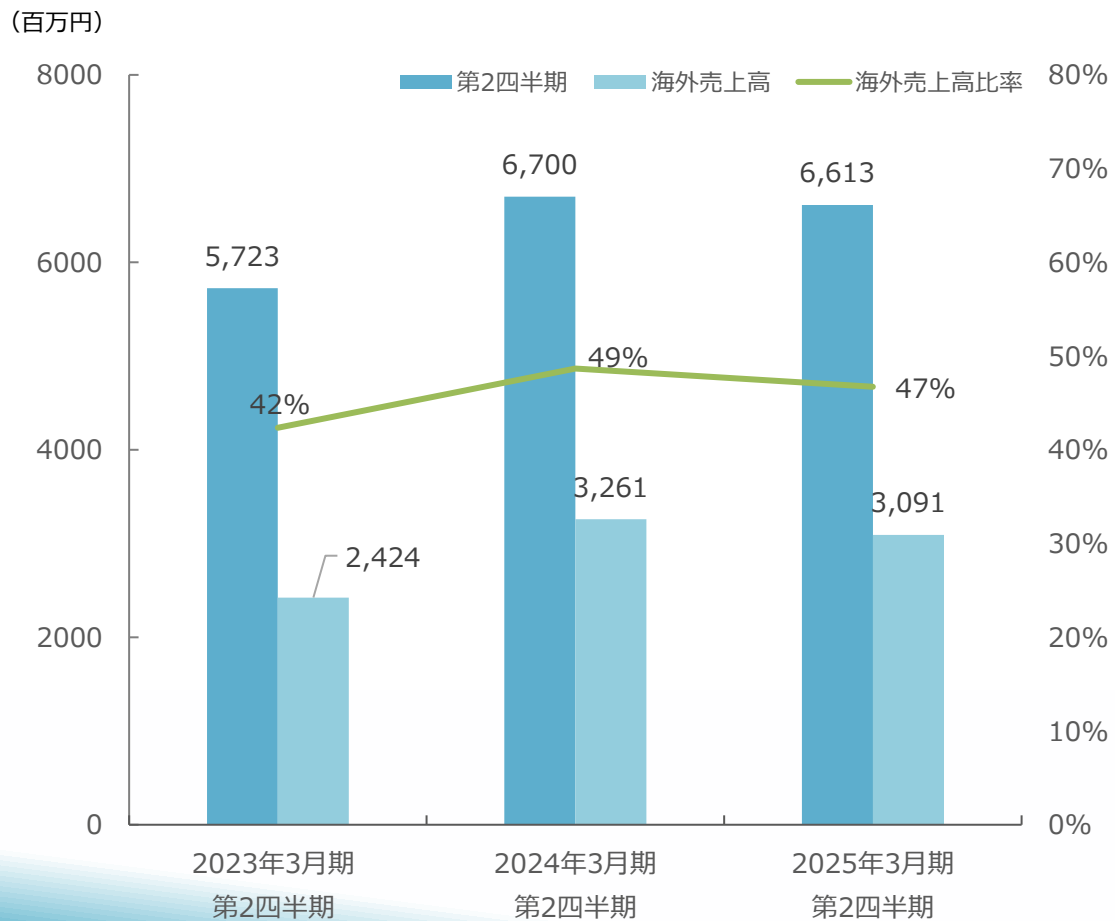
主力製品の便潜血が、海外の入札前の買い控えや在庫調整などの構造的要因により減収
 遺伝子関連に関しても、新型コロナ検査薬の需要が期初予想より下回ったことなどから減収
 一方で、尿検査、微生物検査、器具・食品関連に関しては需要も堅調に推移し、増収

	2024年3月期 第2四半期		2025年3月期 第2四半期		前年同期比	
	(百万円)	構成比	(百万円)	構成比	(百万円)	増減比
便潜血	6,700	33.1%	6,613	33.5%	△ 86	△1.3%
免疫血清 (便潜血を除く)	4,799	23.7%	4,870	24.7%	70	+1.5%
尿検査	2,064	10.2%	2,293	11.6%	229	+11.1%
微生物	2,131	10.5%	2,194	11.1%	63	+3.0%
生化学	295	1.5%	295	1.5%	0	+0.1%
器具・食品環境	987	4.9%	1,001	5.1%	13	+1.4%
遺伝子関連	1,421	7.0%	712	3.6%	△ 709	△49.9%
医療機器・その他	1,863	9.2%	1,748	8.9%	△ 115	△6.2%
合計	20,264	100.0%	19,729	100.0%	△ 534	△2.6%

セグメント別決算詳細①

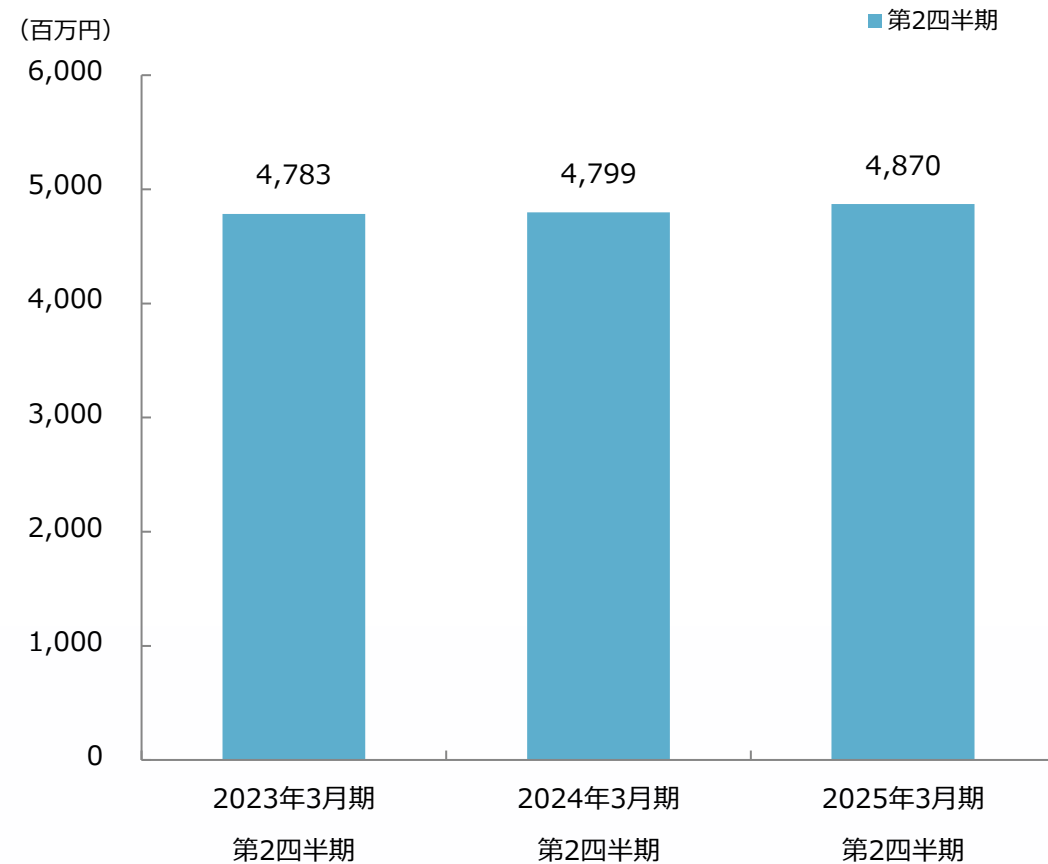
便潜血検査用試薬

海外において需要増加の要因はあるものの、次期入札に向けた買い控えや在庫調整などの影響もあり減収 一方、国内は堅調に推移



免疫血清検査用試薬

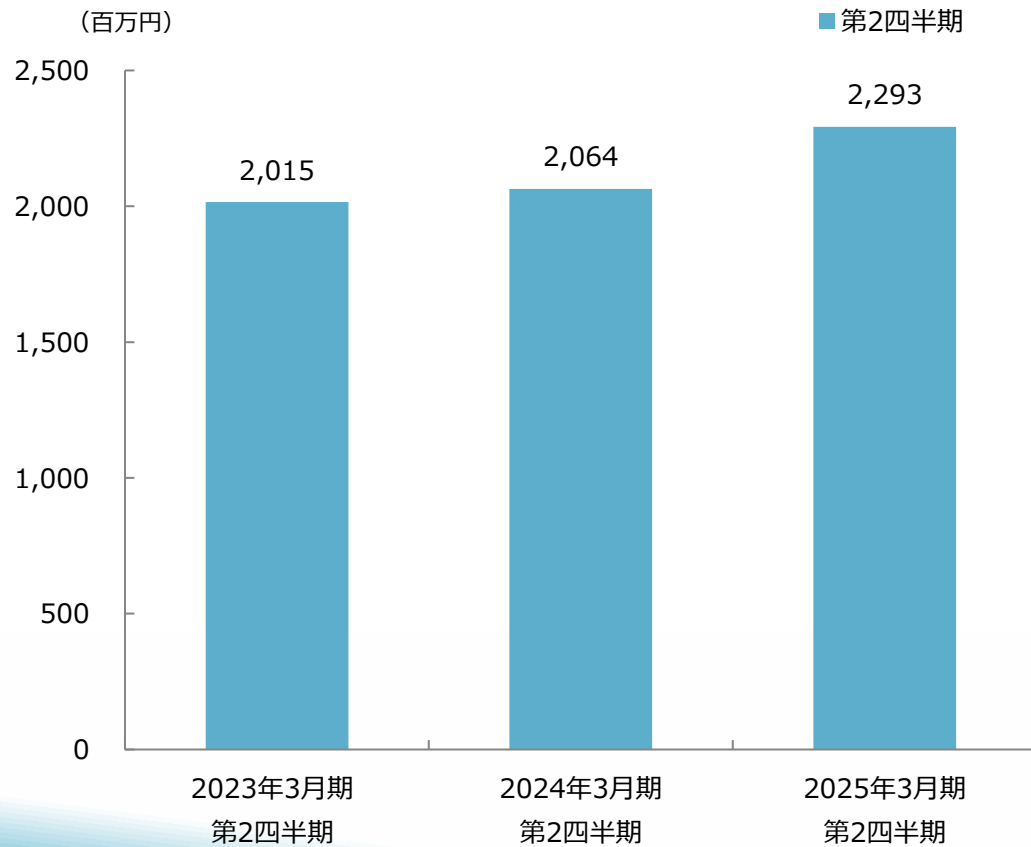
HbA1cの採用施設増加により増収



セグメント別決算詳細②

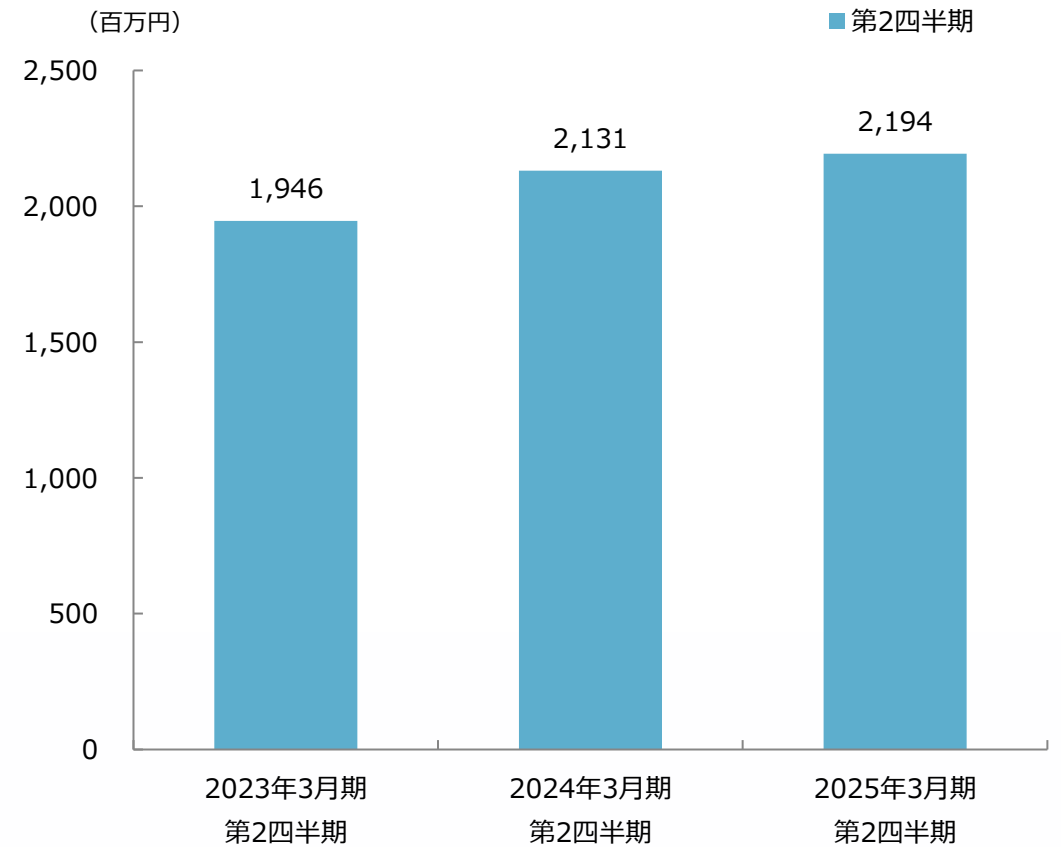
尿検査用試薬

国内における新規獲得、海外向けの販売増の要因で順調に推移



微生物検査用試薬

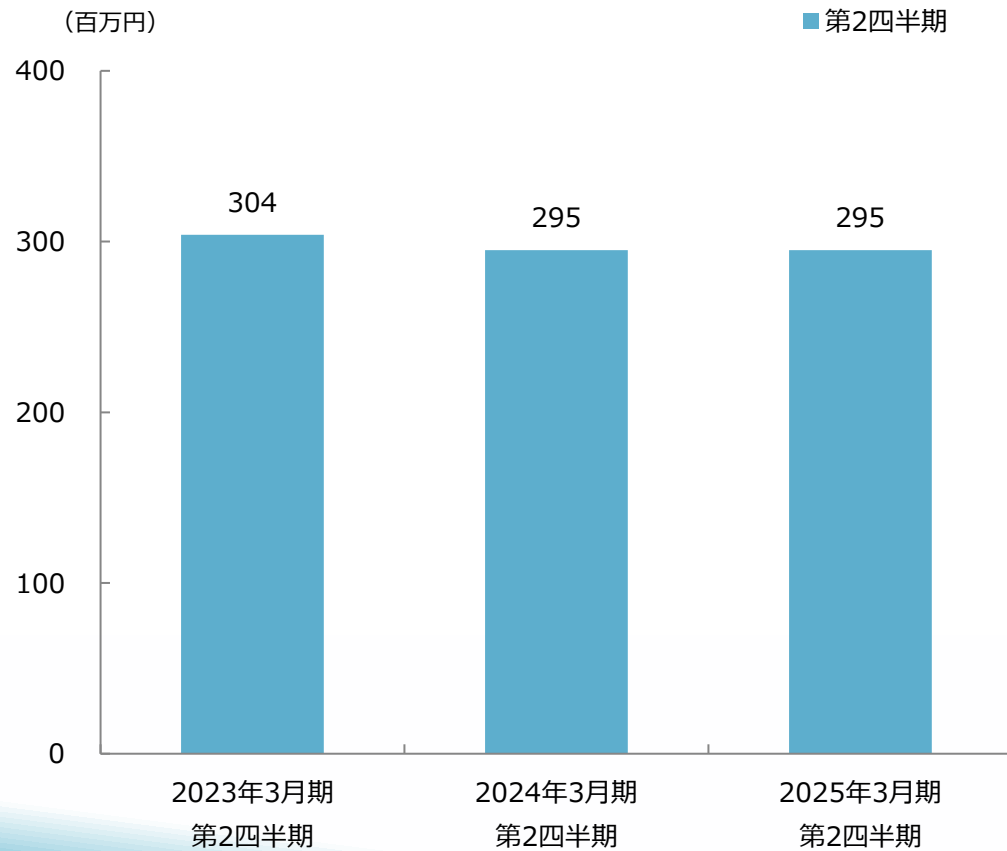
新製品の迅速診断キット等が売上を伸ばし増収



セグメント別決算詳細③

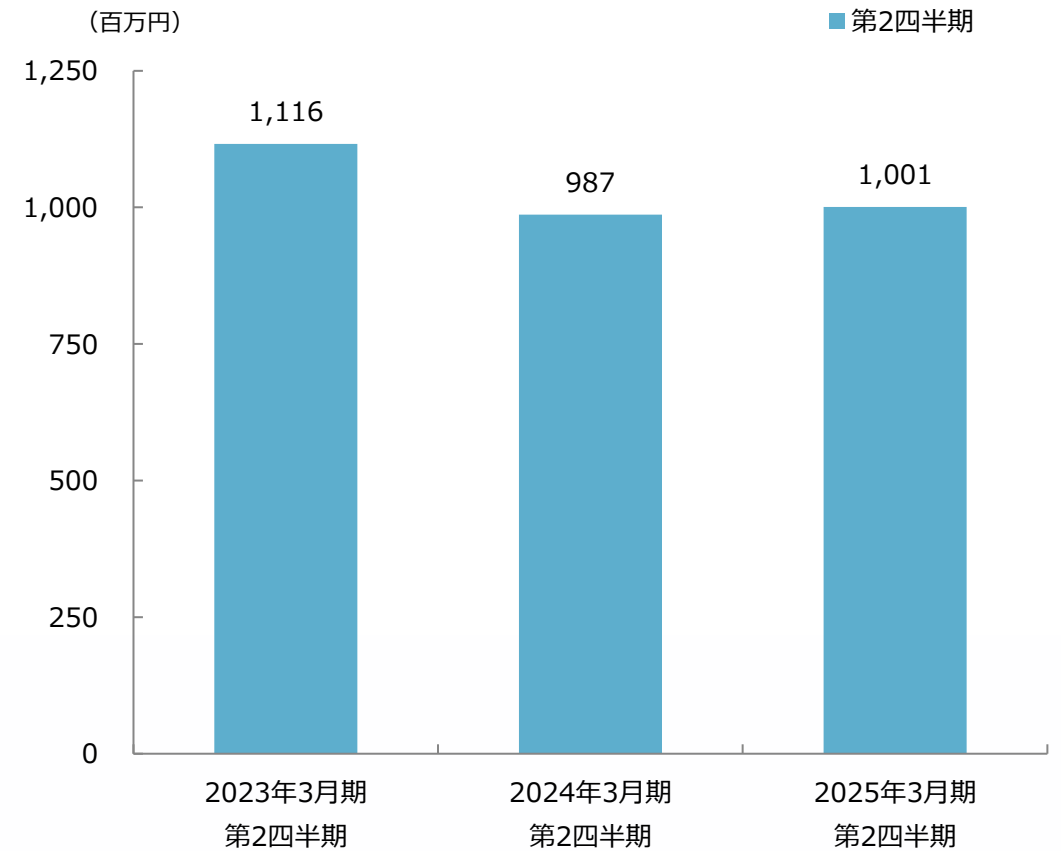
生化学検査用試薬

第1四半期同様、市場環境の厳しさのなか前年並で推移



器具・食品環境関連培地

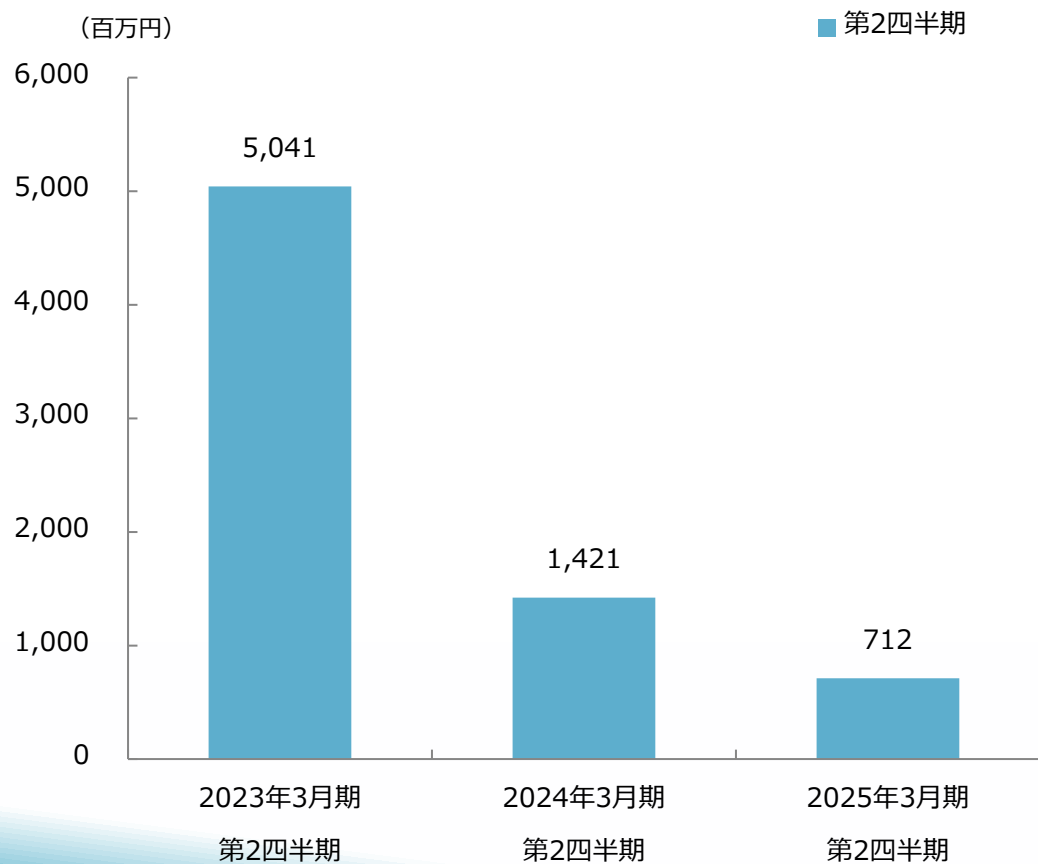
値上げの効果、国内需要の増加に伴う受注増により増収



セグメント別決算詳細④

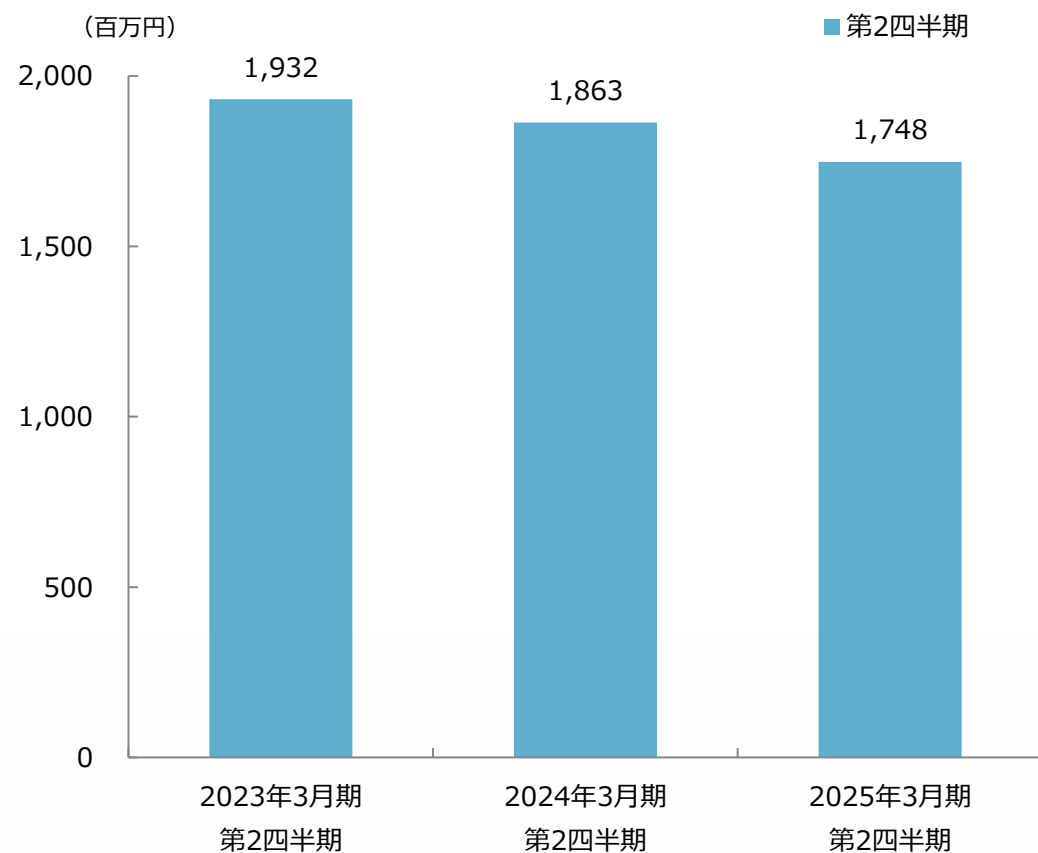
遺伝子関連

新型コロナウイルス検査薬の需要が減少し、LAMP法特許料収入も想定を下回り減収 *特許料収入：1百万円（前年同期 205百万円）



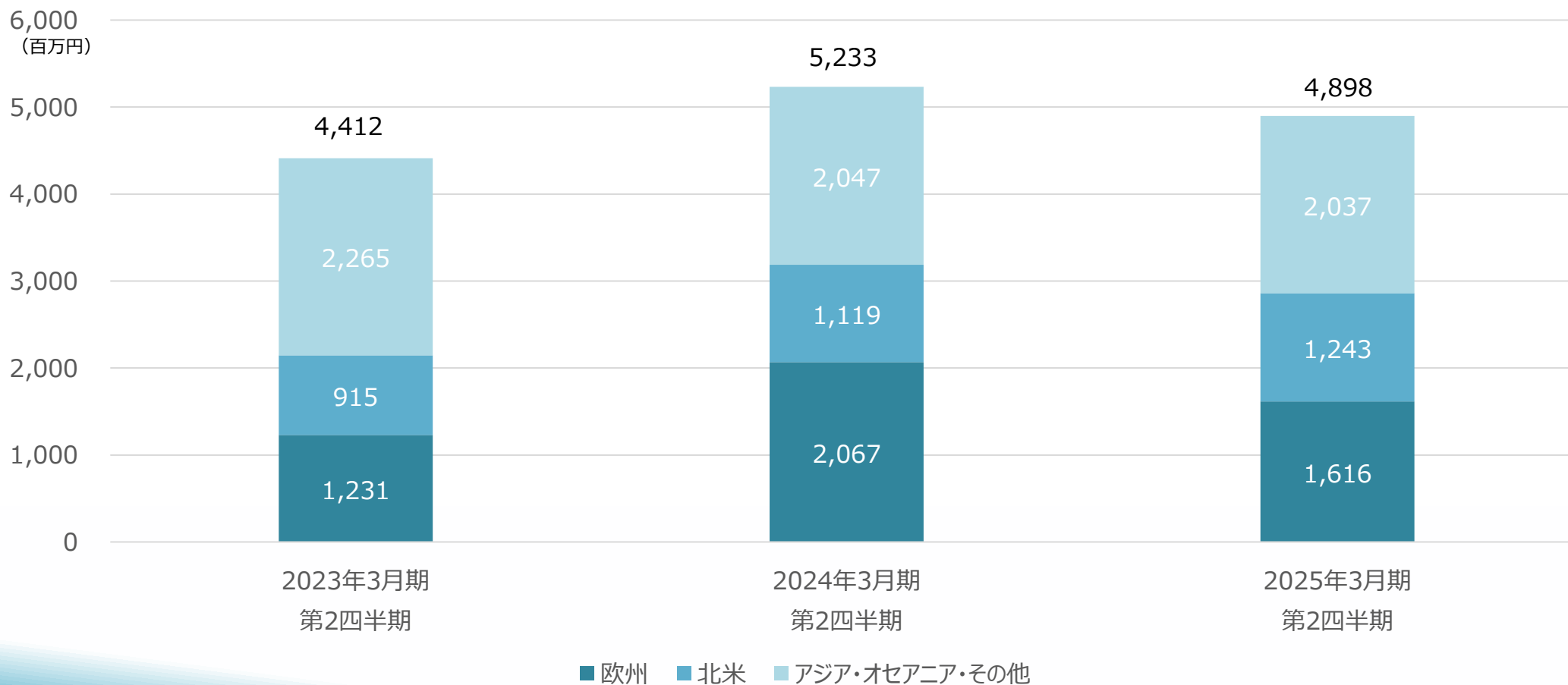
医療機器・その他

医療関連施設の機器更新時期の影響により減収



海外地域別売上高

- (欧州) 便潜血はフランスやイングランドで次期入札に向けた買い控えがあったが、入札時期の延期が決定し2Q途中から買い控えが解消してきたが、1Qでのマイナス分の回復には至らなかった。また、開発途上国向けの結核検査薬 (TB-LAMP) ※1の出荷時期が下期に偏ったこと等から上期減収
- (北米) 便潜血で受注の期ずれが解消し、2Qで大幅に回復したことにより増収
- (アジア・オセアニア・その他) アジア便潜血の在庫調整等により減収となったが、尿検査試薬※2は引き続き好調に推移



※1 途上国向け結核検査薬 (TB-LAMP) はすべて欧州地域に含む

※2 海外向け尿検査用試薬 (シスメックス(株)との提携) の売上はすべてアジア地域に含む

2025年3月期 通期業績予想の変更

2025年3月期 通期連結業績予想

2025年3月期の通期業績予想を下方修正

売上高に関しては、国内・海外ともに上期実績を勘案し期初想定を引き下げ。24年3月期比で微増収見込み
売上減、セールスマックスの変化により粗利が減少、経費削減および効率的な使用に取り組むが、24年3月期比で減益予想

	期初予想		修正予想		期初予想との差異 (百万円)
	(百万円)	売上高比率	(百万円)	売上高比率	
売上高	43,100	100.0%	40,200	100.0%	△ 2,900
国内	30,780	71.4%	29,420	73.2%	△ 1,360
欧州	4,600	10.7%	4,500	11.2%	△ 100
北米	2,610	6.1%	2,280	5.7%	△ 330
アジア・オセアニア・その他	5,110	11.9%	4,000	10.0%	△ 1,110
売上原価	23,460	54.4%	23,320	58.0%	△ 140
売上総利益	19,640	45.6%	16,880	42.0%	△ 2,760
販売費及び一般管理費	13,980	32.3%	13,670	34.0%	△ 310
営業利益	5,660	13.1%	3,210	8.0%	△ 2,450
経常利益	5,620	13.0%	3,270	8.1%	△ 2,350
当期純利益	4,480	10.4%	2,620	6.5%	△ 1,860

2025年3月期 セグメント別予想

主力の便潜血に関して当社固有の悪化要因はないものの、新市場浸透に時間を要しており、上期業績を勘案し期初予想から下方修正（前年実績は12,315百万円）

遺伝子関連においては、ナイジェリアにおける結核検査薬（TB-LAMP）の大規模採用が継続も、新型コロナ遺伝子検査薬の需要の減少分を取り戻せず

売上が順調に推移しているセグメントもあるが、全体として通期予想を下方修正

	期初予想		修正予想		期初予想との差異 (百万円)
	(百万円)	構成比率	(百万円)	構成比率	
便潜血	14,800	34.3%	12,690	31.6%	△ 2,110
免疫血清 (便潜血を除く)	10,245	23.8%	9,500	23.6%	△ 745
尿検査	4,515	10.5%	4,735	11.8%	220
微生物	4,800	11.1%	4,765	11.9%	△ 35
生化学	690	1.6%	580	1.4%	△ 110
器具・食品環境	1,715	4.0%	1,910	4.8%	195
遺伝子関連	2,860	6.6%	2,210	5.5%	△ 650
医療機器・その他	3,475	8.1%	3,810	9.5%	335
合計	43,100	100.0%	40,200	100.0%	△ 2,900

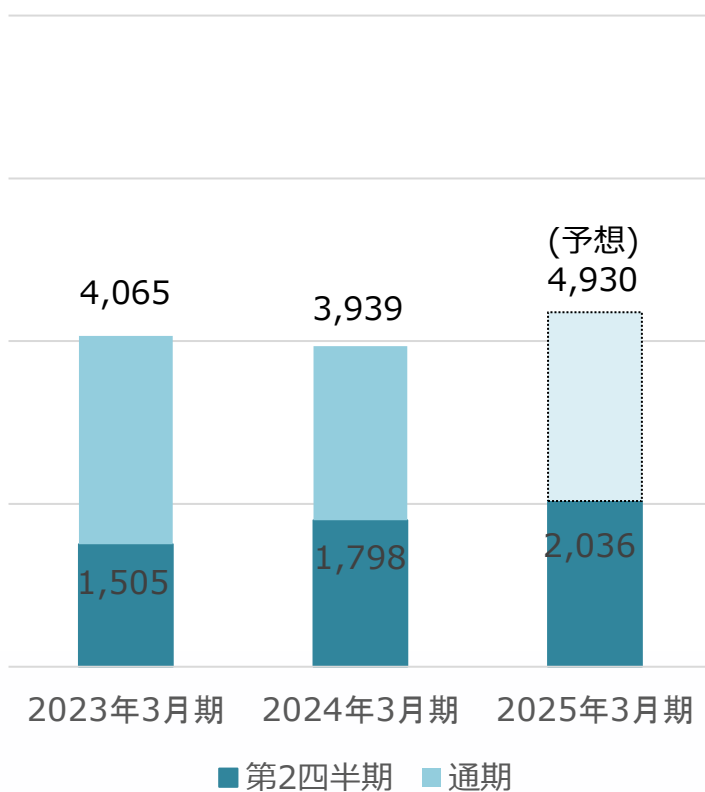
上期の整理および下期の見通しと対策

	期初想定	期初想定との差異（上期実績）	今後の見通しと対策
便潜血検査	<p>海外</p> <ul style="list-style-type: none"> ・受診対象年齢拡大等による需要増 ・各国受診率の向上 <p>国内</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新採便緩衝液による需要増（郵送検診の普及拡大） ・国の大腸がん検診受診率の目標値アップに伴う受診率の向上 	<ul style="list-style-type: none"> ・入札前の買い控え・在庫調整（主に1Q） ・対象年齢拡大効果に時間を要する <ul style="list-style-type: none"> ・順調に推移しているものの期初予想に対しては未達 ・郵送検診の効果に時間を要する 	<ul style="list-style-type: none"> ・当社固有の悪化要因はないものの上期業績を勘案し下方修正 ・入札前の買い控えは解消 ・大腸がん検診未実施国への展開（例：インド、中東 etc.） ・各国の受診率向上をプロモート <ul style="list-style-type: none"> ・上期業績を勘案し下方修正 ・新採便緩衝液による郵送検診の普及、受診機会の向上 ・大腸がん検診受診率向上への取り組み（自治体向けサービスの提供、一般向け啓発ウェブサイトによる情報発信）
遺伝子関連	<p>新型コロナ遺伝子検査</p> <p>病院市場（術前・入院前検査）での一定数需要</p> <p>LAMP特許料</p> <p>特許が残る地域でのランニングロイヤリティ収入</p> <p>結核検査薬（TB-LAMP）</p> <p>ナイジェリアにおける大規模採用の継続</p>	<p>検査の有料化も相まって受診意識が薄れ、需要が想定を下回る</p> <p>想定を下回る</p> <p>ファンドの予算確保の遅れによる期ずれ</p>	<p>上期状況のまま推移</p> <p>上期状況のまま推移</p> <p>通期予想は期初想定通り、今期中に出荷予定</p>
収益性	<ul style="list-style-type: none"> ・期初時点では大幅増益を見込む ・高利益品（便潜血、イムノキャッチ新製品等）に集中した販促を展開 ・セールスマックスの変化による粗利の改善を想定 <ul style="list-style-type: none"> ・一方で主に研究開発費増による販管費の増加も想定 	<ul style="list-style-type: none"> ・減益 ・高利益品の市場への浸透に時間を要している ・一方で利益率の低い器具・装置関連は対予算で好調に推移 <ul style="list-style-type: none"> ・販管費は期ずれ等により対予算で未消化 	<ul style="list-style-type: none"> ・通期減益予想 ・対策：高利益品の拡販、一部の製品群および海外の円安を利用した値上げの実施 <ul style="list-style-type: none"> ・経費削減、効率的な使用に取り組むが、将来の成長に向けた研究開発、人的資源への投資は継続 ・製造承認申請にかかる規制対応に伴う開発費の増加もあり、研究開発費は期初想定比で増加 ・通期営業利益率は期初想定比で△5.1ポイントを予想

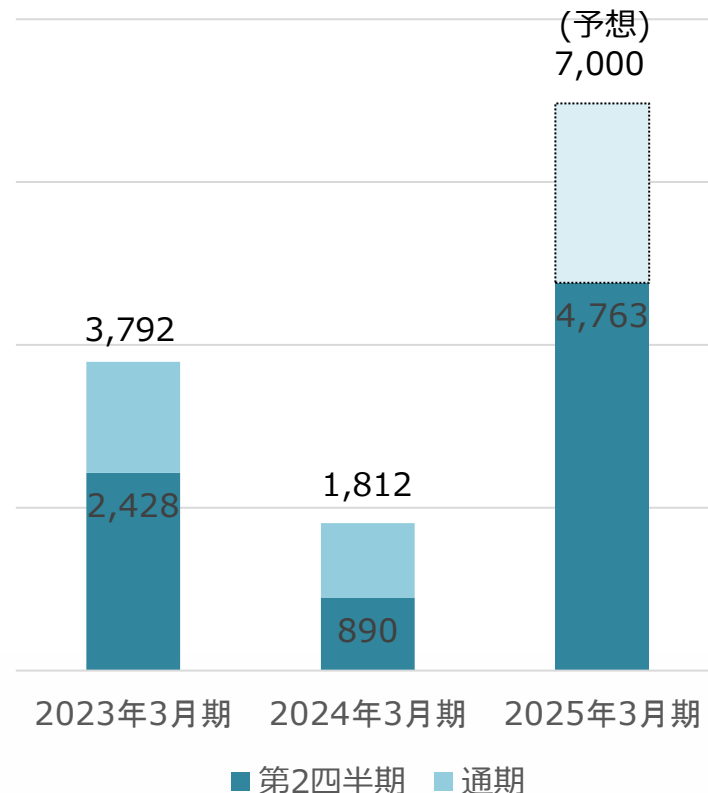
研究開発費・設備投資・減価償却費

(百万円)

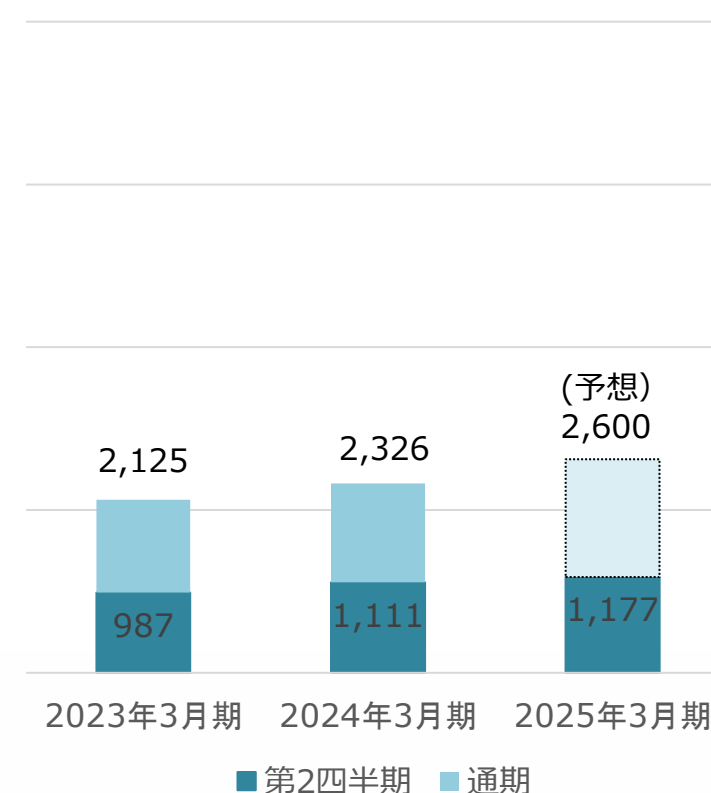
研究開発費



設備投資



減価償却費



自己株式取得の決定

株主への追加の利益還元として**50億円を上限とする自己株式の取得を取締役会にて決定**
25年3月期の1株当たり配当金は53円、配当金総額は18億円で期初予想から変更なし

%

自己株式の取得に係る事項を決議（2024年10月31日）

- 取得し得る株式の総数 : 200万株（50億円）上限
- 株式の種類 : 普通株式
- 取得期間 : 2024年11月1日～2025年7月31日
- 取得方法 : 東京証券取引所における市場買付

その他トピックス

1. 便潜血検査市場の動向と当社製品の今後の展望
2. 「EIKEN ROAD MAP 2030」実現に向けた構想
3. 「EIKEN ROAD MAP 2030」実現に向けた初の戦略投資の実行
4. 「EIKEN ROAD MAP 2030」実現に向けた提携
5. 栄研化学 統合報告書 2024公開
6. 次期中期経営計画（2025年度～2027年度）の考え方／策定の進捗

1. 便潜血検査市場の動向と当社製品の今後の展望

～便潜血検査の需要増加 各国受診対象年齢の拡大～

世界各国において、がん検診の対象年齢引き下げ・拡大の動きが更に活発化するものと見込まれる
それに伴い、便潜血検査の大幅な需要増加が期待される

	米国	イングランド	スペイン	オーストラリア	台湾
スクリーニング形態※1	プライベートスクリーニング	国家スクリーニング	地域スクリーニング	国家スクリーニング	国家スクリーニング
スクリーニング頻度	1年に1回	2年に1回	2年に1回	2年に1回	2年に1回
1 / 2日法※2	1日法	1日法	1日法	2日法	1日法
① 対象年齢（開始当初）	50-75歳	60-74歳	50-69歳	50-74歳	50-74歳
② 対象年齢（現行）	45-75歳（引き下げ）	55-74歳（引き下げ）	—	45-74歳（引き下げ）	—
② による増加人口※3	約2200万人	約380万人	—	約160万人	—
③ 対象年齢（目標）	—	50-74歳（引き下げ）	50-74歳（引き上げ）	—	45-74歳（引き下げ） 40-44歳の家族歴がある者を対象へ追加
③ による増加人口※3	—	約390万人	約230万人	—	約15万人
年齢拡大へ向けた動き	2021年～45歳へ 引き下げ	2021年～55歳へ 引き下げ 現在、50歳への対象 拡大が目標	2024年4月～ 準備のできた地域より 順次開始	2024年7月～ 45歳以上の希望者を対象 に開始。今後45歳以上全 員へ拡大予定。	2025年1月～
拡大完了目標時期	—	2025年	2029年（開始から5年後）	2024 / 2025年	—

※1 プライベートスクリーニング：個人の自己負担で実施するがん検診。個人が自由にがん検診の検査手法を選べる。米国は、免疫法便潜血検査のほか、化学法便潜血検査、内視鏡検査、便潜血検査+遺伝子検査などから選択可能。

国家/地域スクリーニング：国/地域の予算で実施するがん検診。がん検診の検査手法は免疫法便潜血検査に決定しており、個人は決められた検査を決められた間隔で受診する。

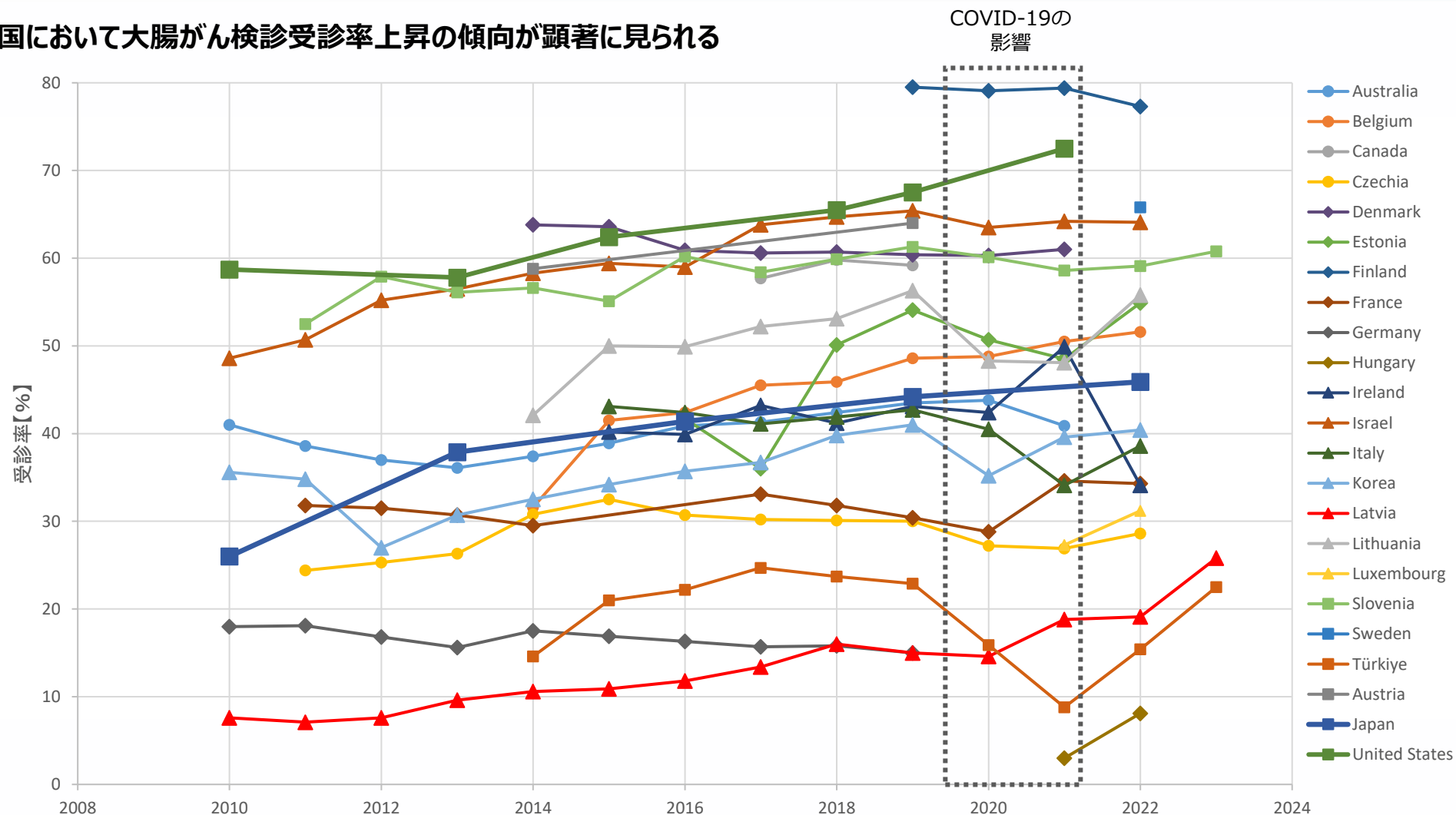
※2 1日法：1人の受診者が一度の検診で1個の採便容器を使用。 2日法：1人の受診者が一度の検診で2個の採便容器を使用。

※3 米国はプライベートスクリーニングのため、増加人口すべてが便潜血検査を選択するとは限らない。国家・地域スクリーニングの4か国は、全員が便潜血検査を選択。2年に1回の検診のため、年間増加数は増加人口の約半数を見込む。

1. 便潜血検査市場の動向と当社製品の今後の展望

～便潜血検査の需要増加 各国の大腸がん検診受診率の推移～

実際に各国において大腸がん検診受診率上昇の傾向が顕著に見られる



※ がん検診受診率は、OECD Health Statistics 2024 (OECD Data Explorer • Screening) より引用
 ※ 複数の検診手法が行われている場合（米国）、受診率はそれらをまとめたものであり、個々の検診手法の受診率は公開されていない
 ※ 各国の受診率調査の間隔は統一されていない

1. 便潜血検査市場の動向と当社製品の今後の展望

～当社の便潜血検査試薬の特徴と世界展開目標～

FITの実績・圧倒的シェアを活かし、国際標準化・新技術で付加価値を高め新たな顧客獲得を目指す

- ① 豊富なエビデンス ～内視鏡キャパシティーに合わせた基準を設定可能～
- ② 優れた採便容器 ～測定不能率が低い～
- ③ ヘモグロビンの安定性（35℃ 35日の保存で80%以上の残存率）
- ④ 便潜血検査の精度管理 ～世界中から1000以上の施設が当社精度管理サービスに参加～
- ⑤ 豊富な経験で充実したサポートサービスを提供可能



100+ journal reports with OC-SENSOR



各国の受診率上昇と共に、当社製品の展開国数も増加しており、2030年には世界57か国での展開を目標としている

当社製品展開国数

2022年度
44か国

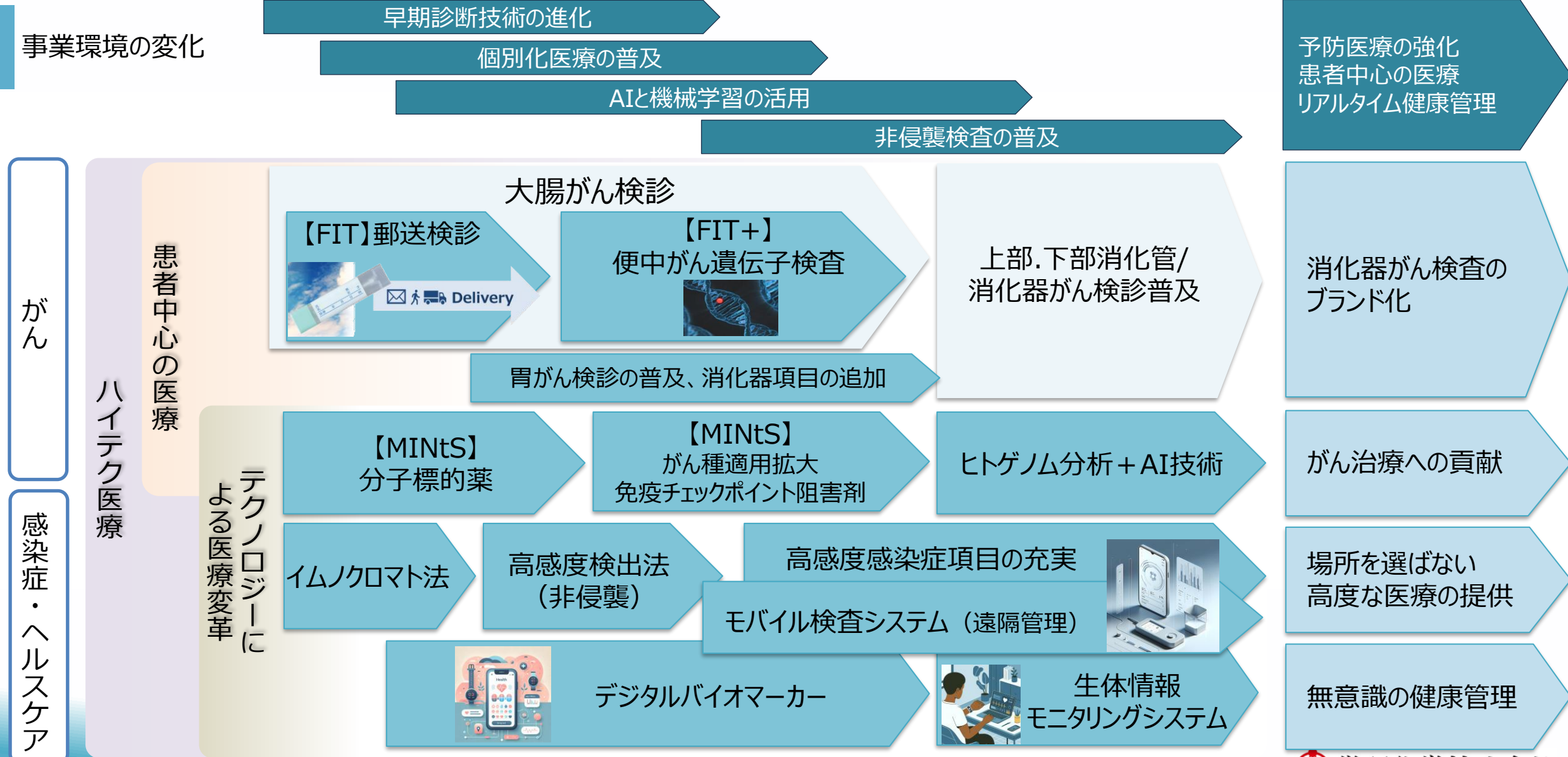


2023年度
47か国



2030年目標
57か国

2. 「EIKEN ROAD MAP 2030」実現に向けた構想



3. 「EIKEN ROAD MAP 2030」実現に向けた初の戦略投資の実行

～既存事業の対応範囲の拡充と新規市場の開拓を通じて、持続可能な成長を目指す～

唾液による感染症デジタル検査技術を開発するナノティス社へ出資
実装に向けての開発を進め、次世代の検査キットの製造販売を目指す

コアテクノロジー NANOTIS法

Nucleic Acid Navigated Optically Traceable Immuno-Sensing

- PCRでもイムノクロマトでもない、次世代の感染症検査プラットフォーム技術
- 世界初：誘電泳動法による「濃縮」を検出技術に融合、高感度化を実現
- PCRと同等の理論的アプローチをより迅速・簡便・安価に実現

唾液

超迅速 (3分)

専門家不要

安価

デジタル・データ即時集計可能

特異的検出

× 誘電泳動

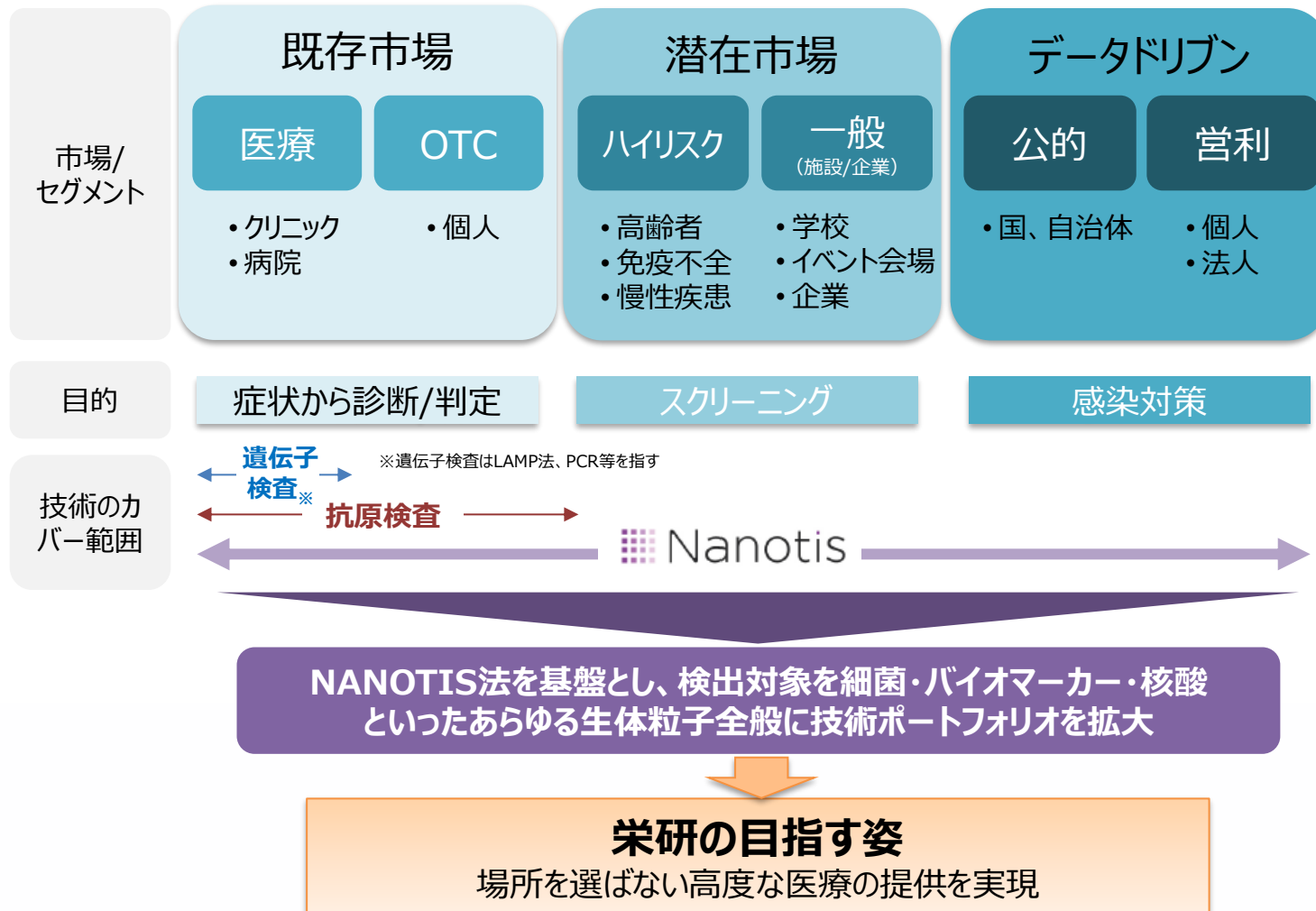
× 定量分析



原理特許取得済み

インフルエンザウイルス*の濃縮・可視化に成功

* NANOTIS法原理実証の第一のモデルとして、不活化されたインフルエンザウイルスを使用



* 本資料中の製品完成予想図はすべて現時点での製品イメージであり、今後の開発状況によって変更され、実際の仕様と異なる場合があります。

3. 「EIKEN ROAD MAP 2030」実現に向けた初の戦略投資の実行 ～既存事業の対応範囲の拡充と新規市場の開拓を通じて、持続可能な成長を目指す～

■ ナノティス 会社概要

- 名称：ナノティス株式会社
- 代表者取締役CEO, Founder：坂下理紗
- 本社所在地：〒151-0053 東京都渋谷区代々木五丁目50番13号
- 設立：2016年6月6日
- 資本金：1億円
- 事業内容：感染症迅速検査デバイスの研究開発
- ウェブサイト：<http://nanotis.net/>
- コンセプトビデオ：<https://vimeo.com/880363397>



栄研化学株式会社 代表執行役社長 納富継宣 コメント

「Nanotis法は、従来の技術から考えると瞬時に判定までできる、POCT検査の常識を大きく覆すポテンシャルを秘めた技術になると評価しました。ナノティス様と共に、この具現化に向けしっかりと取り組んでいきます。」

ナノティス株式会社 代表取締役CEO, Founder 坂下理紗 コメント

「臨床検査薬のリーディングカンパニーである栄研化学様よりご評価を頂き身の引き締まる思いです。期待される両社のシナジーをもってすれば、研究開発ならびに事業の具体化をさらに加速できるものと確信しています。」

4. 「EIKEN ROAD MAP 2030」実現に向けた提携

2024年9月30付で東京科学大学と「がん及び感染症領域における革新的な臨床検査技術の開発」を目的とした包括連携協定を締結

栄研化学

パイオニアとして培ってきた
臨床検査技術の開発力



東京科学大学

東京科学大学病院との連携により、
診療情報を有するバイオリソースの保有

革新的な臨床検査薬の開発により、医療に貢献する
～がん及び感染症領域における革新的な臨床検査技術の開発～

5. 「栄研化学 統合報告書 2024」を公開

栄研化学 統合報告書 2024を公開

<https://www.eiken.co.jp/ir/integrated/>



経営理念の実現 FIT

What's FIT?

- 大腸がん検診として日本での推奨グレードA^{#1}
- 簡易
- 当社製品の国際的な文献数100以上
- 低コスト
- 展開国数47カ国
- 国際機関の承認
- WEO
- CUT
- JAMA
- 国内シェア67%^{#2}
- 国内シェア

FITの社会的・経済的意義

大腸がん患者のほとんどはステージⅢおよびⅣ^{#3}で発見されます。大腸がんは、比較的進行が遅く早期に発見できれば、十分に完治が望める病気です。欧州においては、ステージⅠ^{#3}で診断される患者が現在の13%から50%以上になることにより、年間13万人以上の命が救われ、毎年30億円以上の医療費を抑制できる可能性があると推測されています^{#4}。当社が提供する免疫法便潜血検査 (FIT) は、便の表面を擦って採取する簡易かつ安価な検査で、大腸がんのおよそ30%がこの検査で発見されており、そのうちの70%は早期がんでした。この検査の継続により、大腸がんを減らすリスクを60%減らすという研究報告^{#5}があり、その有用性は科学的根拠によって証明されています。そのため、費用対効果の高さを特に評価されており、各国の大腸がん検診のガイドラインにFITが収載され^{#6}、世界47か国で当社製品が大腸がんスクリーニングプログラムとして導入されています。

	2023年	2030年	算出方法
ポジティブ価値	41億\$	51億\$	FITによって大腸がんを早期発見したことによる経済効果 2023年：2023年度検査受診売上本数から計算した検査人数×がん発見率×早期発見率×5年生存率×GDP (USD/capita) 参照：OECDデータ 2030年：想定市場×想定シェア×がん発見率×早期発見率×5年生存率×GDP (USD/capita) 参照：OECDデータ
ネガティブ価値	6億\$	10億\$	偽陽性だった人に内視鏡検査をした場合にかかる費用 2023年：検査受診売上本数から計算した検査人数×陽性率×陽性率×2次検診受診率×内視鏡費用 2030年：想定市場×想定シェア×陽性率×陽性率×2次検診受診率×内視鏡費用 ※内視鏡費用は、日本、米国、EUのそれぞれ、\$、€で計算し、2024年3月31日時点の為替にて\$へ変換
社会的価値	35億\$	41億\$	ポジティブ価値 - ネガティブ価値

^{#1} 国立がん研究センター がん対策研究所
^{#2} 富士経済
^{#3} 大腸がんのステージはステージⅠ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳの5段階
^{#4} COLORECTAL SCREENING IN EUROPE
^{#5} 和歌山県立医科大学がん検診ガイドライン (平成16年度厚生労働省がん検診推進1万人検診の適切な方法とその評価法の確立に関する研究)
^{#6} 各国のガイドライン等 <https://www.eiken.co.jp/ir/publication/>

EIKEN CHEMICAL Integrated Report 2024 11

社会的価値 (FIT/LAMP)

経営理念の実現 LAMP

ステークホルダーへの提供価値 Stakeholder Message

結核予防会理事長 尾身 茂 先生

結核を取り巻く環境・課題

結核は、新型コロナウイルスが猛威を振るった3年間を除くと感染症として長きに亘り世界最大の死亡原因である。かつては日本の国民病ともいわれたが、近年、国内の罹患率は下がり、ようやく低蔓延化した。しかし、OECD加盟国の中では依然として高く、高齢者などの保護者が、免疫が落ちて発症するケースや、若年者を中心とした外国出生患者の占める割合が増加しているなどの課題もある。高齢者の場合は、典型的な症状がないために診断が遅れ、重症化する例や若い世代にうつってしまう例もある。

開発途上国ではいまだに結核が蔓延している。かつての日本のように、働き盛りの人が結核により命を落としており、社会的な問題は深刻だ。開発途上国の多くが抱える課題は、医療インフラが整っておらず、検査の専門技術者が少ないために、結核の発見が遅れる、あるいは見落とされていることだ。世界の結核が終息しない限り、国内の結核の終息もない。結核は多途のパンデミックだ。

LAMP法の果たす役割・意義

世界的には2035年までに結核を終息するという目標[#]を掲げているが、それを実現するのに必要なのは技術革新だ。結核の検査は、培養法、塗抹法、PCRなど様々な中、LAMPは日本の技術が生み出した検査だ。結果が早くわかり、複雑な機械を必要としないため、どこでも使える。また、検査手技や結果の判断が簡単で誰でも使える。アジアやアフリカ諸国の技術支援により、見落とされていた結核患者の発見にも大きく寄与している。世界の結核終息に貢献し得る検査だ。

今後LAMP法に期待すること

結核の終息への貢献はもちろん、マラリアやNTDs (顕微鏡下で検出されない寄生虫) など結核以外の感染症の抑制への貢献にも期待している。世界の感染症の抑制には、保健システム強化や理学医民の連携が必要だ。次世代の子供たちにとっての世界を救うのは、今生きている私たちの大きな責任である。世界中で最大規模の感染症である結核に対して、確固たる対策をすべての国で実行していくことが、子供たちに対する私たちの果たすべき大きな責任である。LAMPがその一翼を担うことを期待している。

[#] 結核終息目標 End TB Strategy | 2035年までに世界の結核罹患率を2015年の半分以下に90%減少、死亡数を2015年の半分以下に95%減少。結核にかかるとはるかに多くの命を奪ってしまう恐れ。そのための方策を示した目標。2014年に世界保健会議で採択された。

EIKEN CHEMICAL Integrated Report 2024 13

ステークホルダーメッセージ

6. 次期中期経営計画（2025年度～2027年度）の考え方／策定の進捗

次期中期経営計画は、「EIKEN Vision 2030」に向けた中間地点と位置づけ

事業ポートフォリオの見直しによる持続的なトップラインの成長を図り、資本収益性を意識したバランスシート経営にシフト

中期経営課題に対する取り組み		
事業戦略	財務・資本収益性	ガバナンス体制
<ul style="list-style-type: none"> 海外事業の開拓 直販体制の検討 事業ポートフォリオ戦略の見直し 新製品開発への集中投資と体制強化 	<ul style="list-style-type: none"> 事業ポートフォリオの再構築、プロダクトミックスの改善 余剰資金を用いたM&A、技術獲得を検討 資本コストを意識し、資本収益性改善施策の実行 キャッシュアロケーションを意識したバランスシートの見直し 	<ul style="list-style-type: none"> 株価や中期業績目標と連動した役員報酬の検討 投資規律の強化 投資家へアピールできるIR資料の改善、中長期的な成長に向けたビジョンの発信
〈現在の検討状況〉		
<ul style="list-style-type: none"> 各事業・製品の採算性を精査中 海外売上向上・利益率改善のため、各提携先との契約内容を見直し 今後3年間の投資計画を策定中 	<ul style="list-style-type: none"> 来年度以降の株主還元方針について、取締役会にて議論中 余剰資金を活用した戦略投資を実行（詳細はP24参照） 	<ul style="list-style-type: none"> 来年度以降の役員報酬体制について骨子を作成済み IR活動強化のため、外部専門家の意見を取り入れ

Saving Your Health

世界的な臨床検査薬企業として、人々の健康を守り続ける

本資料は、金融商品取引上のディスクロージャー資料ではなく、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。また、本資料に記載されている将来の予想等については、現時点で入手可能な情報に基づき当社が判断したものであり、今後様々な要因によって予想と異なる場合があります。

本資料は、一切の投資勧誘またはそれに類する行為を目的として作成されたものではありません。

当社は、本資料の利用により生じたいかなる損害に対しても、一切責任を負いかねます。